

## 昭和30年頃の江東(古写真展示)

### 1 四ツ目通り 小名木川橋から 東方向を望む



四ツ目通りの小名木川に架かる小名木川橋から東方向を見ています。古写真の左側には手前にコンクリート製品工業所、精糖会社の工場がありました。現在はホームセンターとマンション等になっています。両岸は遊歩道（「塩の道」）が整備されています。

また、古写真では遠方に貨物専用越中島支線の小名木川橋りょうが見られ、貨物列車が走っているのが見えます。単線となり便数が減りましたが、頑張っています。なお、小名木川と横十間川が合流する地点に小名木川クローバー橋が架かりました。

### 小名木川 北側護岸 東方向 現在 令和4年12月11日撮影





## 現在の状況（地図）

出典：「江東区都市計画図」（江東区、令和4年3月）

### 凡例

古写真の撮影方向を示し、現況写真も同じ地点で撮影した場合





## 2 小名木川に架橋された万年橋



この鋼鉄製「万年橋」(①)は、大正12年(1923)関東大震災の復興橋梁として、昭和5年(1930)に再架橋され現代に至ります。さらに、この地域が、景観重点地区指定された機会に、深川の文化・歴史・景観に配慮してライトアップ対応を平成21年(2009)に行いました(③・④)。

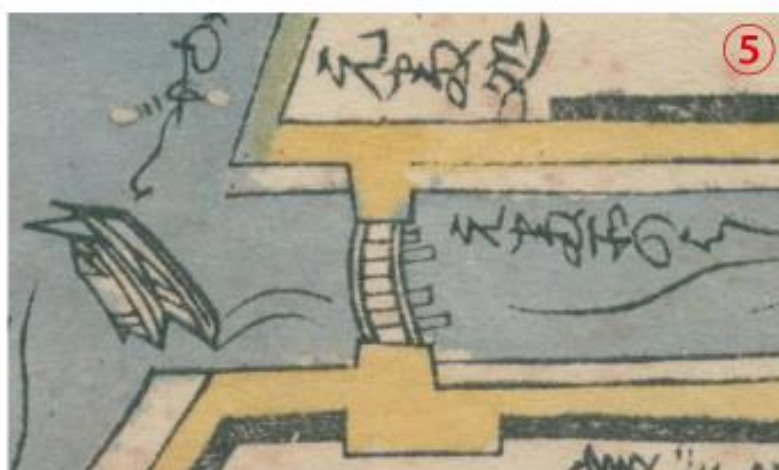
架橋の歴史は図(②)の様に古く、江戸初期の重要な水運路の小名木川に、隅田川より入口の処に、架けられました(現在より20mほど隅田川方向)。一方幕府は近くに、船運行取り締まりの番所を設けました。

古地図(⑤)には「元番処」や「元番所のはし」と残されています。







地図の出典：「江東区都市計画図」（江東区、令和4年3月）



⑤表紙屋市郎兵衛「江戸方角安見圖鑑 2巻」（1680年）  
国立国会図書館コレクション

※  は各写真・画像からの方向を示しています  
(撮影地点)  (撮影方向)

- ①：古写真 小名木川に架橋された万年橋
- ②：「富嶽三十六景 深川万年橋下」風俗絵巻出版協会 編集  
・発行、『富嶽三十六景 葛飾北斎傑作』（1936年）  
国立国会図書館コレクション
- ③・④：写真提供：江東区土木部道路課橋梁係



### 3 靈 巖 寺 旧 本 堂



れいがんじ おうよれいがんしょうにん かやばちょう かんえい  
靈巖寺の前身は、雄誉靈巖上人によって現在の茅場町あたりに建てられた草庵で、寛永元年  
(1624)、幕府船手頭向井将監忠勝の下屋敷地である隅田川中洲に本堂が創建された。靈巖寺は、寛  
永5年(1628)に浄土宗関東十八壇林のひとつとなったが、明暦3年(1657)の大火で焼失し、翌年の  
万治元年(1658)に深川の現在地を拝領して再建された。 ※檀林…僧侶の養成機関・学習所

古写真は、昭和20年(1945)の空襲で焼けた後、使われた建物、旧本堂である。現本堂が完成した昭和  
56年(1981)以降は庫裏となったが、建て替えのため平成4年(1992)に役目を終えて解体された。

#### 現在の靈巖寺本堂 令和4年12月撮影





地図の出典

「江東区都市計画図」(江東区、令和4年3月)

凡例

古写真の撮影方向を示し、現況写真も同じ地点  
で撮影した場合

(撮影方向)



(撮影地点)